

都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

中心市街地地区

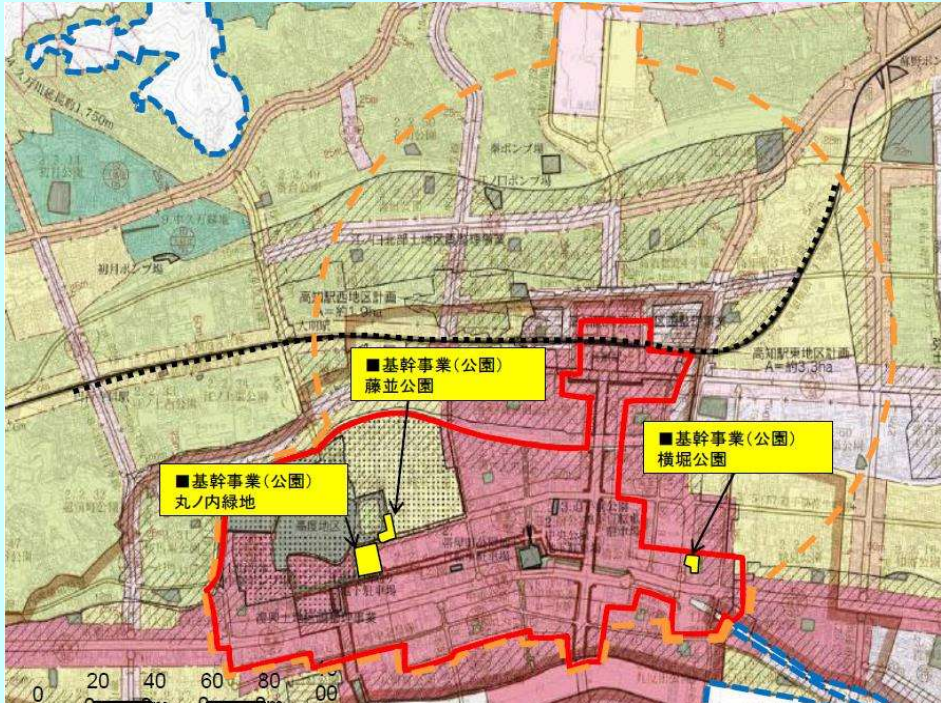
令和7年12月

高知県高知市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	高知県	市町村名	高知市	地区名	中心市街地地区			面積	148ha				
交付期間	令和元年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	640.9百万円	国費率	令和元年度 45% 令和2～6年度 50%						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	公園(丸ノ内緑地、藤並公園、横堀公園)									
			提案事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園(中央公園)、道路(高知街6号線、高知街50号線)			他事業に変更		影響なし					
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業											
		提案事業											
	交付期間の変更	当初	R元年～R5年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	影響なし							
変更		R元年～R6年											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	公園使用許可日数	日/年	43	H30	64	R6		71(R6)	○	あり なし	公園再整備によるイベント利用環境向上により、来街者の増加につながるイベントが開催され、公園使用許可日数が増加したと考えられる。	-
	指標2	歩行者通行量	人	114,221	H30	114,569	R6		114,913(R6)	○	あり なし	中心市街地における商店街の取組や各種イベントの開催など、複数の活性化施策が展開されたことにより来街者が増加し、回遊性が高まった結果として歩行者通行量が増加したものと考えられる。公園の再整備は、これらの取組を支える受け皿として一定の役割を果たしたと評価できる。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
4)定性的な効果発現状況	都市公園の再整備により、利用環境が改善され、来街者の滞在性や安心感が向上したことで、日常的な憩い・交流の場としての利用が増えつつある。また、イベント開催の増加に伴い、公園が地域活動や交流の拠点として認識されるようになり、周辺事業者などとの連携の動きも広がりがつつある。これらの変化により、中心市街地における賑わい創出や回遊行動を促す効果が徐々に現れている。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	官民連携による取組		地域や関係団体と連携したワークショップや意見聴取を実施し、イベント開催等まちのにぎわい創出につながる再整備計画を策定した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● イベントの開催等公園の利用状況を定期的にモニタリングし、効果検証及び改善を継続的に行う。		
	持続的なまちづくり体制の構築		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

中心市街地地区(高知県高知市) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
中心市街地として、暮らしやすく、にぎわいと活力のあるまちづくり 目標1:公園や道路などの生活基盤の質的向上を図り、居住人口の増加につながる暮らしやすいまちの実現 目標2:イベントの開催等新たな公園の利活用や快適・安全な歩行空間の確保により中心市街地の回遊性を高め、まちなかを歩いて楽しめる、にぎわいや活力のあるまちの実現		公園使用許可日数	単位: 日/年	43 H30	64 R6	71 R6
		歩行者通行量	単位: 人	114,221 H30	114,569 R6	114,913 R6
			単位:	H	R	R
			単位:	H	R	R
			単位:	H	R	R
イメージ	丸ノ内緑地				再整備後	丸ノ内緑地
	藤並公園					藤並公園
	横堀公園					横堀公園
まちの課題の変化		<ul style="list-style-type: none">本計画による都市公園の再整備のほか、中心市街地活性化に向けた各種施策により、公園使用許可日数や歩行者通行量の増加が見られ、一定の賑わい創出につながっている。一方で、人口減少・高齢化や空き店舗率改善の伸び悩みなど中心市街地の空洞化は依然として課題となっている。今後の都市公園の利活用による中心市街地の活性化に向けては、限られた財源のもと、既存施設のリニューアルによる老朽化対策と来街者の多様なニーズに応える施設整備の両立が求められる。また、再整備により利用環境が向上し、憩い・交流機能や回遊性の改善が見られ始めている中、さらなる魅力向上や日常的な賑わいの形成に向けて、地域主体の活動を支援し、継続的にまちづくりに関わる仕組みを強化することが今後の課題となっている。				
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)		<ul style="list-style-type: none">今後の都市公園利活用では、回遊性向上・効果的投資・多様なニーズ対応を図るため、丸ノ内緑地を含む中心市街地に位置する都市公園を面的に捉え、各公園の特性に応じて「イベント拠点」「歴史文化発信」「憩い・交流」等の役割を明確化し、公園間の機能分担と連携を進めることが重要となる。限られた財源の中では、老朽化した施設の計画的な更新に加え、利用者の多様なニーズに応じた休憩環境の改善、バリアフリー化、防災機能の強化など、日常利用を支える基盤整備を着実に進める必要がある。さらに、公園と商店街・観光施設の連携によるサイン整備や歩行者空間の改善、複数拠点での運動イベントを通じて回遊・滞在を促進する。地域主体の活動が継続するよう、運営支援や協働の仕組みを整備し、市民参加型の交流・文化活動を定着させることも重要となる。これらを定期的なモニタリングとPDCAで検証・改善し、総合的に推進することで中心市街地の持続的な活性化を目指す。				